

ア. 実践授業の取組

月	時数	内容	用意した物
9	1 ～ 9	おがわ学について 新商品開発のプロセス ・様々な職業と経済や経営について、意見交換 ・心豊かに暮らす為の地域と生活について ・ランプシェードについて意見交換	プリント 参考資料 ワークシート
10	10 ～ 15	演習①ランプシェード制作 ・完成予想・コンセプト(制作意図)をまとめる ・和紙の素材研究 ・LEDについての学び ・用具の使い方 ・土台作り・成形の工夫	作品見本 LED ライト 和紙 のり、ボンド 風船 針金、ペンチ
11	16 ～ 26	演習②商品開発および改良 ・作る側と使う側の立場の違いについて ・意見交換 ・細部の仕上げや改良 ・設計図制作	角材、厚紙 筆 パレット 小皿 ミシン糸
12	27 ～ 32	総括 ・取扱説明書を作成 ・展示の準備 ・販売を想定した場合の課題 ・商品発表(プレゼンテーション) ・授業の感想・今後の課題	水糸 紙やすり 水入れ A3 画用紙 A4 用紙 カラーペン

イ. 体験的・課題解決的な学習活動(生徒の活動の様子)



←左：制作途中の協議の様子

↓下 商品説明プレゼンテーションの一コマ



実際に商品を作ることで作る側(売る側)の視点だけでなく、使う側(買う側)の視点が加わり、より考え、工夫する態度がうかがえた。更に設計図や取扱説明書を制作したことで、自分の作業を振り返る良い機会となった。

発表の機会や話し合う場面では、自分が何をどうすれば良いかを考えたり、確認したりして、他人の意見や作品を尊重する態度が見られた。



意見交換の様子



和紙の素材研究

学習成果物(ワークシートや写真など)



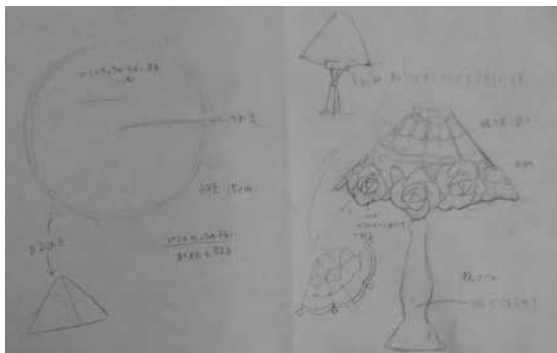
ランプシェードの通常時と点灯時



### (3) 分析と考察

経済や経営、商業に関する知識はそれぞれが学問として成り立つほどの内容があり、商品開発として絞ってはいるが、指導する立場でもその奥深さには改めて難しさを感じた。LEDについても同様に奥深く、ほんの一部の知識にとどめた。

生徒は商品開発における仕事の多さや多難さに気づき、知識を深め視野を広げる事が出来た。



#### 演習①ランプシェード制作

まずは地元小川町の伝統産業である和紙について考え、素材研究や何か魅力的な物が作れないか話し合い、ランプシェード制作に方向を定めた。

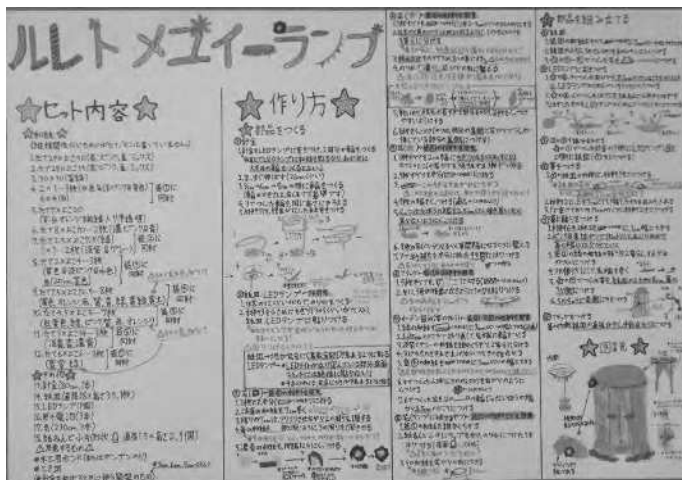
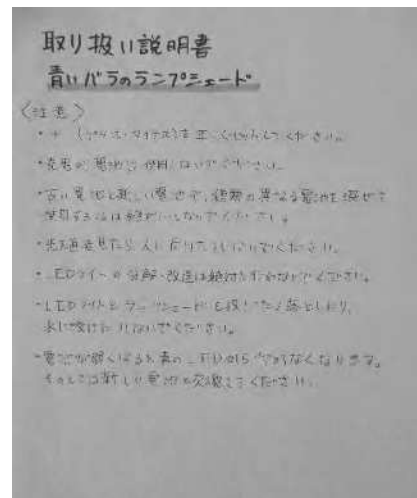
この段階で興味を持ち生徒が各自制作に取り組みだしたことは、大いに評価できる。



## 演習②商品開発(制作)と改良

実際に完成予想を元に制作を始めてみると、問題点や疑問が見つかり、人に聞いたり調べたり部品を用意したりと、各自で乗り越えて完成までこぎ着けた。

そこで設計図と取扱説明書という形で、制作を振り返りながらまとめさせた。





総括として、最後に自作の商品をプレゼンテーションしたが、発表の仕方が不十分で、コンセプトは伝わるものの、販売の観点からは、まだ経験不足の感は否めない。

#### (4) 研究成果・今後の課題

##### ア. 研究成果

ランプシェードの商品開発という絞った形で3年間行ったが、生徒の自由な発想と創造力は評価に値する。生徒同士の会話の中で「これほしい。」「いくらで売ろうかな？」などと会話が生まれたり、LEDライトの美しい光に日本人が開発に関わりのあることを知ったり、地元小川町の和紙の素晴らしさを理解し、生活の中で心豊かに送ることの大切さが身についたことや、単なる作品制作ではなく深い学びに繋がったことが成果といえよう。

また、ランプシェード作りは小川町の小学生・中学生も取り組み、発達過程に於ける目標によって深みの出せるすばらしい題材であることが解った。

まさに今回の発表を経て、小川和紙を利用して各児童生徒が自分で考え工夫をし、それぞれの目標達成に向かい創造力や表現力を高めていることがうかがえた。

##### イ. 今後の課題

- ①更に深く学ばせる為には、値段を決める為の原価計算や、商品開発費の算出が必要であるが、かなり難しい。
- ②時間に余裕があれば、プレゼンテーションに商品説明パネル、または映像を用意できれば更に良い。
- ③地元で実際に商品開発に携わる人の話を聞かせる機会の検討。

### 14 総合的な探究の時間「グローバルイングリッシュA」

総合的な探究の時間 (グローバルイングリッシュA)	受講生徒:3年生9名	担当者:教諭 谷野 浩人
------------------------------	------------	--------------

#### (1) 授業のねらい

- 英文テキストを使い、SDCs についての知識を身に着け、グローバルな視点から地域の視点へと落とし込む。
- 自分の身の回りのSDGs 関連の課題を発見をし、調査や話し合いを通して問題解決に向けて探究する。
- 調査結果や自分の考えを英語で発表し、表現力や発信力を養い、総合的な英語力を向上させる。

#### (2) 実施報告

##### ア. 実践授業の取組

###### <1 学期>

SDGs 英語長文(三省堂)をテキストとして使用し、SDGs についての概要を知る。①水の危機 (Water Crisis) と②プラスチック汚染 (Plastic Waste) の2点を中心に SDGs についての基礎的な内容を学習した。SDGs を調べる際には、生徒は Chromebook を使って情報収集した。

###### <2 学期>

引き続き、SDGs について学び、③Natural Disasters(自然災害)と④Refugees(難民)の2点を中心に、諸外国で起きている問題について、関心を持つきっかけを作った。並行して、SDGs に関する小川町の取り組みや自分が関心がある小川町のスポットを調べ現地調査し、スラ



イドで発表できるように原稿、資料作りを行った。最初は日本語の発表原稿を作り、11月の発表会に向けて英語の原稿づくりを行った。

イ. 体験的・課題解決的な学習活動

7月の発表では生徒がそれぞれ興味があるスポットを地図上で示し、バーチャルな町歩きツアーを実践した。コロナの影響もあり、現地調査が実施できなかったので、作り上げたコースの実際の所要時間や説明時間が適切であるか、課題を残した。

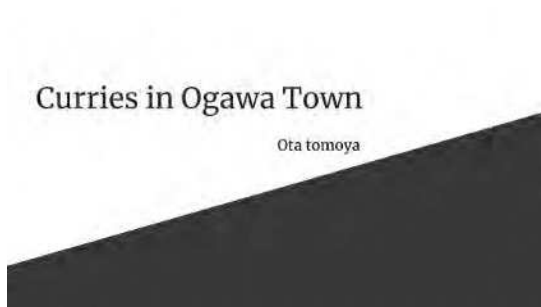
2学期になり、作りあげたコースに合わせて現地調査を行った。施設によっては説明を聞くことができ、2学期の発表に向けてより深い考察ができたようである。

ウ. 学習成果物

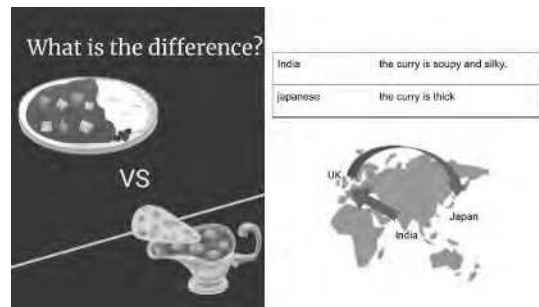
- ・小川町のスポットに関するスライドの発表原稿



割烹 福助



小川町のカレー屋さん



おからドーナツ 三代目清水屋

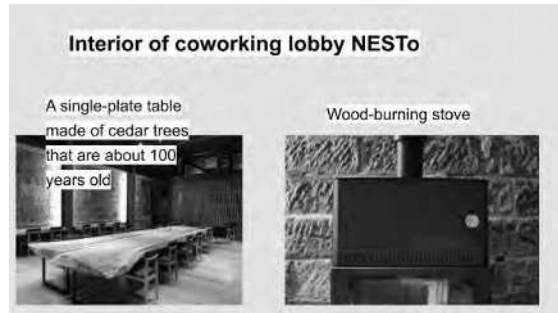
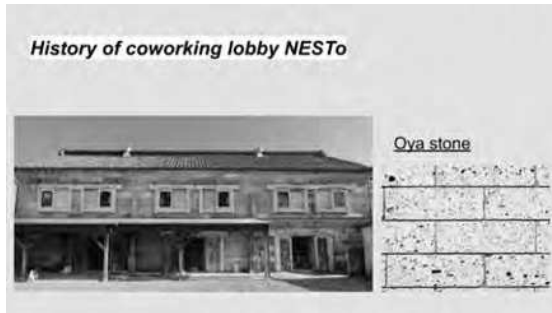


FALLONE



割烹旅館 二葉





coworking lobby NESTo



栃本親水公園



玉成舎

### (3) 分析と考察

小川高校に通いながら、小川町のことをあまり知らずに3年間過ごした3年生にとってみれば、小川町を題材とした身の回りにある課題を自ら発見して、調査し、表現するという一連の過程を通して、小川町あるいは自分が住む街を考えるきっかけができたであろう。二葉割烹旅館の八木健二社長のお話や小川町和紙体験学習センターの施設見学、そこで創作活動をされていたイ・ヘリムさんのお話は調べ学習では得られない貴重な機会であった。

### (4) 研究成果・今後の課題

情報収集と現地調査、それを英語で発表という一連の過程は実行できた。特に発表については、不慣れた英語を使って相手に伝えようとする姿勢は評価できる。しかし、発表を前提とする授業の中で、英語と言うよりもそれぞれの生徒の調べ学習や現地調査に時間が割かれてしまった。「おがわ学」の研究開発が始まって3年目の発展途上において、小川町のことをよく知らない3年生に、いきなり英語でおがわ学といっても展開はなかなか難しいことを実感した。



イ・ヘリム作品展

探究の授業が教科で割り振られているので、開講する側としては英語を中心とした授業を考え

る。また生徒も英語を受講する目的をもってやってきていることを考えると、授業の展開を工夫する必要を感じている。新教育課程において、探究授業が定着したときに、3年の英語の授業において、英語による展開がスムーズにできることも期待したい。

## 15 総合的な探究の時間「グローバルイングリッシュB」

総合的な探究の時間 (グローバルイングリッシュB)	受講生徒:3年生20名	担当者:教諭 君島 健太
------------------------------	-------------	--------------

### (1) 授業のねらい

- 標準的なレベルの英文を読み、SDGs について基本的な知識を身に付け、グローバルな視点で世界で起きている課題について知り、考える力を養う。
- 自分の身の回りや、地域の視点から、世界で起きている問題との関連性を見出し、問題解決に向けて、個人や友人、そして地域のレベルからできることを探究する。
- 地域レベルで学んだ視点を元に、グローバルな視点から深い学びを実践する。
- 探究活動を通して、英語での表現力や発信力を養い、総合的な英語力を向上させる。

### (2) 実施報告

ア. 実践授業の取組



#### <1 学期>

SDGs 英語長文(三省堂)をテキストとして使用し、SDGs についての概要を知る。①水の危機(Water Crisis)と②プラスチック汚染(Plastic Waste)の2点を中心に、特にプラスチックゴミの汚染について、プラスチック製品を今後も使い続けて良いのかどうかという問いについて、自分の意見を英語で書き、発表することをゴールとした。意見を英語で書く際に、生徒は Chromebook を辞書代わりに使ったり、情報収集に活用したりした。

#### <2 学期>

引き続き、SDGs について学び、③Natural Disasters(自然災害)と④Refugees(難民)の2点を中心に、諸外国で起きている問題について、関心を持つきっかけを作った。次に、グループで英語のニュース番組を作成し、発表することを目標とするグループワークを行った。グループ内で、政治、社会、国際、スポーツ、エンタメ、ローカル等のトピックから自分が担当するニュースを決め、調べ学習をし、原稿を英訳した。ローカルニュースのトピックは必ず小川町についてのものとして、各グループで、トピックが異なるものになるように配慮した。また、Chromebook のスライドで各自の担当ニュースのスライドを作成し、最終的にグループで統合して、発表用資料とした。

#### イ. 体験的・課題解決的な学習活動

7月の中間発表においては、視聴者に一方的に英語で意見を述べるのではなく、視聴者参加型の発表を行い、双方向的なやり取りが行われるように工夫した。フォーラム発表と12月の校内発表でも、英語のニュースをただ発表するだけでなく、視聴者が参加できるよう、視聴者にインタビューをする場面を設けた。また、報道番組でよくある、キャスターどうしがトピックについて簡単なトークを行う場面を参考に、プレゼン中(番組本番中)に生徒どうしが英語で簡単な会話を行う場面を設けた。



Chromebook で課題に取り組む様子



視聴者参加型の発表の様子

#### <おがわ学フォーラムの様子>



英語のニュース番組の発表の様子



発表中の生徒どうしのやり取りの様子



インタビューに向かう生徒の様子



視聴者にインタビューする生徒の様子

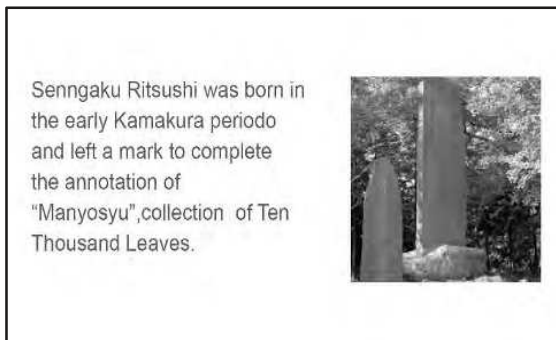
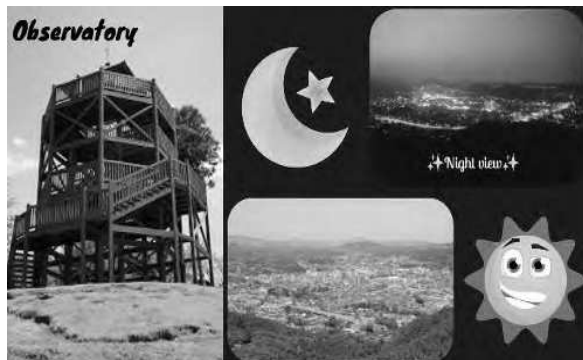
#### ウ. 学習成果物

★NEWS Program スライド(一部)





★Local News(小川町のニュース) スライド(一部)



(3) 分析と考察

～最終日の授業での生徒からの講座についての感想(一部)～

- ・テキストの問題を解くのは難しかったけど、世界でどんなことが起きているのか知らなかったことをたくさん知れて良かったです。
- ・普段やらないような英作文を作ったり、スライドを一から自分たちで作って発表したりと大変だったけど、グループのみんなと頑張れたのは良い思い出です。
- ・元々英語の勉強がしくて何となく選んだ授業でしたが、世界の色々な問題に触れて、何の不便もなく暮らせていることがすごいことだと実感しました。少し胸が痛くなる授業でしたが、SDGsのことを知れて良かったです。発表は楽しかったです。
- ・難民のこと等理解でき、長文を読む力もついたと思います。グループ発表では、皆でしっかり練習し、発表できたので良かったです。
- ・英語の文章をスライドを使いながら発表するのが大変でした。また、聞き手がわかるように簡単な単語を使ったり、スライドで英語を使ってどう見やすくするか工夫しながら発表の日までやり切ることができたので、良かったと思いました。

一年を通してSDGsを中心テーマとして、情報を調べたり、まとめたりして発表することを通して、生徒の視野が少しでも広がってくれていたら、担当者としてはうれしい限りである。また、英語での発表という目標に向けて、準備過程の中で、どうすれば相手に伝わるのかという点において、一人ひとりが何かしらの気づきを持って取り組めたのではないかと思う。相手があつてのコミュニケーションであり、英語での学習を通して、「伝える力」について少しでも意識が及んでくれていれば思う。世界で起こっていることを、自分のこととして受け止めるのはなかなか難しいことであるが、このような機会を経て、生徒の考え方、生き方にわずかなりともプラスになればと考えている。

#### (4) 研究成果・今後の課題

今回はSDGsを通して、グローバルな視点で物事を考え、その後いったん身近な、ローカルな視点に立ち戻り、最後は地域で完結することなく、視野を再び外へより広げていくイメージで授業を計画したが、地域の題材をもっと授業の中で扱える準備を行う必要があった。また、英語で発表する中身について、ローカルな視点をもっと増やし、様々な人が楽しんでもらえる場になるよう、今後もっと工夫をしていきたいと思った。

総合的な探究の時間の一講座としての位置づけではあるが、教科で展開している以上、英語科の教員としては、最終的なゴールはやはり生徒一人ひとりの英語力、学力の向上にあるのではと考えている。その点から考えると、高校3年生までに学習する、語彙、文法等、基礎的な知識・技能が十分身につけていない場合に、英語を通して深い学びを成立させていくことはやはり難しくなってくる。今回この講座を担当し、3年間を通しての英語の必修科目での授業の在り方を見直す必要があることを痛感させられた。また、探究的な学びを通して、この講座から離れても、今後生徒が自ら課題を設定して、学び続けていく姿勢を身に付けられるようになったかという視点で考えると、ほとんどの生徒がそうはなっていないのが現状である。よって、本来目指すところの探究的な学びのゴールにたどり着くには、まだ課題が多く、担当者の工夫がもっと必要であったと考えている。今後、生徒一人ひとりにとって、なぜ英語を学ぶ必要があるのかという文脈づくりと、世界と地域の視点をしっかりと取り入れて、つなぎ合わせつつ、生徒の総合的な学力の向上が図れる講座を作っていきたい。

## IV 地域と連携した取組等

### 1 「おがわ学」オリエンテーション

日 時：令和3年4月15日（水）、16日（木）  
会 場：埼玉県立小川高等学校  
内 容：4月15日（水）と16日（木）の両日、おがわ学オリエンテーションが行われた。15日には3年生、16日には1年生を対象として、「おがわ学」の概要について学習した。過去の取組や今後の方針などを確認して、小川町の現状や魅力などについて検討した。また、地域課題の解決に向けて、グループごとに意見を交わした。「おがわ学」の第一歩として、具体的な学習のイメージを描いて、これ以降に予定される探究の方向性を明確にすることができた。

### 2 小川町役場政策推進課 出前授業

日 時：令和3年6月15日（火）  
会 場：埼玉県立小川高等学校  
内 容：6月15日（火）、3年生を対象として、小川町役場の政策推進課による出前授業が行われた。最初に、これまでの「おがわ学」の取組を振り返って、生徒のアンケート結果などを確認した。続いて、政策推進課の方から「小川町の取組について（地方創生の実現に向けた取組）」という講演があり、地域社会の課題や現状などを共有した。さらに、観光・生活・子育てなどをテーマに、グループごとに話し合いをして、それぞれが出したアイデアを発表した。さらに、グループごとに分かれて、「どうしたら小川町に観光に来たいと思いますか？～観光客に人気の町ってどんな町？～」、「どうしたら小川町に住みたいと思いますか？～生活しやすい町ってどんな町？～」、「将来パパ・ママになった時、どんな町に住みたいと思いますか？～子育てしやすい町ってどんな町？～」というテーマで話し合った。3年生は、総合的な探究の時間で「おがわ学」に取り組むが、政策推進課による出前授業を受けることで、小川町の問題に関心を深めて、探究学習の前提となる知見を得ることができた。



小川町役場政策推進課 出前授業

### 3 ホタル観察会

日 時：令和3年6月25日（金）  
会 場：小川町 八和田地区  
内 容：6月25日（金）、小川町の自然を調査して、地域の魅力を発見する試みとして、ホタル観察会が行われた。小川高校の生徒を中心とする有志の参加者で、八和

田地区の水路などを散策した。天候にも恵まれて、多くのホタルを見ることができた。初めてホタルを見たという生徒も多く、小川町の自然の豊かさを知り、地域に対する愛着や認識を深める契機になった。



ホタル観察会

#### 4 夏期集中講座 SDGs 講座

日時：令和3年7月27日（火）

会場：埼玉県立小川高等学校

内容：7月27日（火）、夏期集中講座 SDGs 講座が行われた。大学進学を目指す進学選抜クラスの夏期集中講座として、「おがわ学」とも関連づけながら SDGs を学習した。NPOあかりえの谷口西欧氏を講師として招聘して、講義と実習を交えた3コマの講座を開講した。SDGsとは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、持続可能でよりよい世界を目指す国際社会の共通目標であり、日本でも多くの大学がSDGsに関する取組を行っている。こうした現状も踏まえて、総合型選抜などの入試にも対応するため、進学選抜クラスがSDGsの講義を受講した。前半の講義では、谷口氏が用意したスライドで、SDGsの概要や世界的な取組などを学習した。後半は、小川町で採れる材木を使用して、地元の資源を循環させる試みとして、実際に薪割りの機械を稼働させて巻割り体験をした。SDGsの基本的な概念を理解すると同時に、小川町の地域に密着したSDGsの試みについて学習を進めることができた。

#### 5 P T A 研修旅行小川町歩き

日時：令和3年11月7日（日）

会場：埼玉県立小川高等学校、小川町

内容：11月7日（日）、PTAの研修旅行で小川町歩きが行われた。新型コロナウイルスの影響で遠方への旅行が難しい情勢を踏まえて、図書・渉外部の研修旅行委員会で協議して、大人の「おがわ学」として地元を散策する小旅行を企画した。生徒たちが授業で実施した町歩きを、保護者たちも追体験することで、「おがわ学」の取組に触れようという試みである。地元のボランティアガイドから案内を受けて、3コースに分かれて約2時間、小川町の名所・旧跡・店舗などを巡った。また、小川町の「わらしべ」の有機野菜を使った弁当や小松屋の和菓子を持ち帰った。高校生が実践している取組の一端を、PTAの保護者たちで共有することで、「おがわ学」の理解を深める機会にすることができた。



P T A 研修旅行 小川町歩き

## 6 「総合的な探究の時間」展示会

日 時：令和4年1月18日（火）～1月21日（金）

会 場：小川高等学校図書館

内 容：1月18日（火）～21日（金）、小川高校図書館の閲覧室で、「おがわ学」に関する生徒作品の展示が行われた。3年生が「総合的な探究の時間」で制作した作品を中心に、「おがわ学」の授業によって創作された成果の一部を展示した。1～2年生の生徒たちは、「総合的な探究の時間」による成果を見学することで、来年度以降に自身も取り組む「おがわ学」について、具体的なイメージを抱いて、科目の選択にも活かせる展示会となった。

## 7 「おがわ学」児童生徒作品展

日 時：令和4年1月26日（水）～2月6日（日）

会 場：小川町立図書館 地下町民ギャラリー

内 容：1月26日（水）～2月6日（日）、小川町立図書館の地下町民ギャラリーで、「おがわ学」に関する生徒作品の展示が行われた。3年生が「総合的な探究の時間」で制作した作品を中心に、「おがわ学」の授業によって創作した成果の一部を一般に展示した。また、小川町の小学生・中学生が「おがわ学」で創作した作品も同時に展示された。小川町を挙げた児童生徒の学びを発信して、「おがわ学」の取組を一般の方々にも周知させる機会となった。



「総合的な探究の時間」展示会

## 8 高等学校図書館担当者向け研修

日時：令和4年2月15日（火）13：30～15：30

会場：Zoomによる遠隔研修

目的：次年度より本格実施される探究的な学習に向け、高等学校司書および高等学校図書館担当教諭を対象に、探究的な学習と図書館を主題とした研修を実施する。

内容：「おがわ学」と探究的な学習 学校図書館の役割

（1）岡本敏明指導主事「探究的な学習と「おがわ学」について」

（2）新井直也司書「「おがわ学」と小川高校図書館 学校司書に求められるもの」

（3）浅見和寿教諭「越境×探究！未来共創プロジェクト実践を通じて学校図書館に期待するもの」

（4）長谷川専門員「地域課題解決での県立図書館活用のコツ」

岡本指導主事からは探究学習の意義が説明された後、「おがわ学」の概要と成果が紹介された。現代社会に求められる資質のため探究学習への期待は大きく、なかでも「おがわ学」は“挑戦事例”として注目に値する。学校図書館に新たに求められるのは「探究の質の向上」「主体的な学習者の養成」「身近な越境、対話の場」の機能である。

小川高校の新井司書は「おがわ学」始動後の生徒の変化、図書館の対応について取り上げた。従来の調べ学習とは比較にならないテーマの多様性、生徒の主体性に対応するには、図書の収集だけでは足りない。地域コーナーの整備、本以外の情報源の提供、探究テーマの把握、レファレンスが新しい課題である。また探究心に「火のついた」生徒には、学校図書館の支援では限界があるかもしれない。公共図書館と学校図書館の垣根を越えたサービス、連携のあり方は検討が急がれる。

朝霞高校の浅見教諭からは、「多様な他者と協働し、課題解決に取り組む力」のための、図書館への期待が報告された。最新ではない書籍のなかにも、探究の鍵が見つかることがある。「ネットと本のいいとこどり」こそが理想である。学校図書館の魅力と弱点を見極めることで、探究の質も上がるだろう。その土台となるのは日々の図書館活動——利用者が足を運ぶ工夫と、教職員の活用を促す体制づくりである。

まとめに、長谷川専門員から県立図書館活用のヒントが示された。探究学習の盛り上がりを受け、県立図書館はサポート体制を整えている。情報の探し方講座、リンク集などは、学校向け支援として有力なツールである。今後ますます広まる探究活動のため、館種を越えた協働もまた日常的なものとなるだろう。



## V 研究成果発表

### 1 「総合的な探究の時間」 中間発表会

日 時：令和3年7月14日（水）

会 場：埼玉県立小川高等学校

内 容：7月14日（水）1～3限、3年生の「総合的な探究の時間」の中間発表会が行われた。「1学期に取り組んだこと」をテーマとして、個人またはグループで発表をした。全12講座を2つに分けて、Aグループは、前半に自身の取組を発表して、後半は他クラスの発表を見学して講評した。Bグループは、前半・後半を逆の順番で活動した。発表の方法は、スライドを用いたり、実技をしたり、見学者参加型であったりと、バラエティに富んだ形式がみられた。発表だけでなく、見学や講評を通じて、生徒たちは多くのことを学び取ることができた。期末考査の直後という時期もあり、準備にかかる時間が少ない中での発表会だったが、探究の成果をプレゼンテーションしたことで、自身の取組の現状を確認して、今後の実践に向けた課題を見つけることができた。



「総合的な探究の時間」 中間発表会

### 2 おがわ学フォーラム

日 時：令和3年11月20日（土）・27日（土）

会 場：埼玉県立小川高等学校・埼玉伝統工芸会館



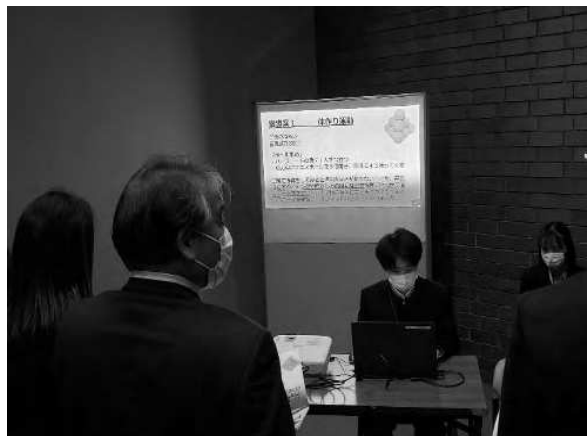
「総合的な探究の時間」 授業公開



「おがわ学体験授業」

目 的：「おがわ学」では、小川町内の小・中・高等学校の児童生徒が、小川町の文化や歴史、産業などについて理解を深めて、地域活動への参画や地域課題の解決に

取り組む能力を育むことを目的として、令和元年度から「おがわ学」の探究活動を続けてきた。新型コロナウイルス感染症の再流行などで、本来の計画を予定通り実行することはできなかったが、3年目の実践の全体像が見えてきた段階で、これまでの成果を一般の方々に広く公開するため、「おがわ学フォーラム」と題するイベントを開催した。



おがわ学フォーラム



おがわ学フォーラム

内 容：11月20日（土）と11月27日（土）の両日、おがわ学フォーラムが行われた。20日（土）は、小川高校で「おがわ学」の体験授業や、「総合的な探究の時間」などの授業公開などがあった。3年生の「総合的な探究の時間」では、主に「おがわ学フォーラム」に向けた発表の準備などが行われた。また、視聴覚室では小川町立図書館の新田文子館長による「小川町と戦争・小川町と沖縄のかかわり」をテーマに「おがわ学体験授業」が開催された。中学生も含めて、多くの町民の方々にも参加していただいた。27日（土）は、午前中に小川町立の小学校や中学校で授業公開が行われた。また、当日の午後には、埼玉伝統工芸会館で「おがわ学フォーラム」が開催された。新型コロナウイルス感染症の予防に配慮して、各会場とも入場人数を制限しながらの開催となった。最初に、小中学校や高校の取組について説明があり、小学校の実践についてビデオ放映で発表があった。続いて、中高生によるポスターセッションが行われた。「総合的な探究の時間」で「おがわ学」に取り組んだ小川高校3年生の代表と、小川町内の3つの中学校の代表による発表が行われた。町立中学校や小川高校の生徒たちが、授業における実践の成果を発表して、参観者とさまざまな意見を交わした。また、イベントホールでは、小川和紙フェスティバルと同時開催で、小中高校の児童生徒の和紙の作品展示と、小川町の6つの小学校が取り組



んだ「おがわ学」の成果について、展示と動画による発表が行われた。多くの町民や教育関係者の方々が発表を参観して、生徒の発表に対して温かい拍手や貴重なご意見などを得ることができた。今年度の「おがわ学」の概要について、多方面の方々に知ってもらう機会となり、一連のフォーラムは盛況のうちに終わった。小川町の小学校・中学校・高校を含めた「おがわ学」の全体像を発表することで、三年間の歩みを総括して、今後に向けた区切りとなる発表会となった。

発表者の声：

どんなことを学びましたか？	この体験を今後どう生かしていきますか？
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の大切さ。地域に興味を持っている人がたくさんいること。</li> <li>・小川町はもっと発展できるということ。</li> <li>・前にでて発表すること、伝えることの難しさ。</li> <li>・聞き手を引き込むために、ゆっくりはっきり話すこと。</li> <li>・質問者側の考えを想定しておかなければならない。</li> <li>・データに対してしっかりとした説明が必要だということ。</li> <li>・発表を見て質問をしてくれる人がいて、こうやって考えが深まっていくんだと思った。</li> <li>・自分の活動だけでなく、さまざまな形で地域と関わりを持っていることが分かった。</li> <li>・自分に関係ないと思っていたことも、このような学びをすることで、自分の視野が広がって楽しい学びになることがわかった。</li> <li>・意見を出し合い、自分の考えをまとめて、それを発表し、フィードバックするという流れが大切だということ。</li> <li>・発表までのプロセス、その後の質問への対応の仕方。</li> <li>・答えがない問題も、深く考えて、自分たちで行動することが大切。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと普段から小川町のよさを見つけていきたい。</li> <li>・後輩たちに小川町のよさを伝えていきたい。</li> <li>・何かを人にアピールする際に、今回の活動を活かして、しっかり準備したいと思う。</li> <li>・人に説明する時は、大きな声で、わかりやすく説明する。</li> <li>・想定外の質問にも答えられるように、準備を万全にしておく。</li> <li>・第三者からの視点を意識して考えること。</li> <li>・発表を聞く側の立場になって考えて、説明の仕方を考えるようにする。</li> <li>・いろいろなことに興味を持って調べるようにする。</li> <li>・この手法を、小論文や自己推薦書に活用していきたい。</li> <li>・将来、大学や会社でもプレゼンテーションに生かしていきたい。</li> <li>・目上の人、知らない人とのコミュニケーションの取り方、言葉遣いや礼儀など、また友人との連携など、今後も必要だと思った。</li> </ul>

### 3 「総合的な探究の時間」校内発表会

日 時：令和3年12月22日（水）

会 場：埼玉県立小川高等学校



「総合的な探究の時間」校内発表会

内 容：12月22日（水）、「総合的な探究の時間」校内発表会が行われた。この一年間、3年生が探究学習として取り組んできたことを、1・2年生と3年生に向けて発表した。「総合的な探究の時間」の1・2講座を前半・後半に分けて発表して、1・2時間目は1年生と3年生の後半発表者が、3・4時間目は2年生と3年生の前半発表者が、見学・講評をした。3年生は総合的な探究の時間、「おがわ学」の取組のまとめとして、1・2年生は、先輩の発表を見学・講評することで、探究的な学びが深まることを期待している。見学・講評する以外の時間、1・2年生は先日の「おがわ学フォーラム」の動画を教室で視聴した。1・2年生に感想を聞くと、「先輩たちスゴイ!!」「自分たちも頑張りたいと思う」といった前向きなものが多く、3年生の取組は後輩にも伝わったようである。また、1～2年生は、上級生の「総合的な探究の時間」の実践の事例を知ること、今後の科目選択に向けて参考になる一日となった。



「総合的な探究の時間」校内発表会

### 3年生の声：

緊張している人が少なく感じました。資料もグラフや表を使って発表している人が多く、とても見やすく良かったです。自分でテーマを決めて、調べていくのはすごく大変だし、難しいことでしたが、無事に発表を終えることができたのですごく安心しました。次の発表に向けて頑張っていきたいと思います。

人によって調べる内容が全然違って、多くの情報を新しく知れて良かった。私は和紙についてまとめましたが、他にも和紙を調べている人が多くいました。しかし、みんな内容やまとめ方が全然違って驚きました。人の意見を聞くことが大切ということがあらためて知れました。

色々なグループの発表を聞いて良かった。自分たちの発表では、沢山の人の前で発表するのはとても緊張したけど、講評カードで高い評価をたくさんもらったのがすごくうれしかった。担当の先生が、私たちが作った曲を組み合わせさせて作ってくれた曲がかわいい感じでとても良かった。

人前にでて発表するのが初めてだったので、とても緊張しましたが、みんなちゃんと聞いてくれて、拍手もくれたので良かったです。また、スラスラと発表することができて良かったです。他の発表を聞いて小川高校や小川町の魅力を再発見することができて良かったです。まだ行ったことのないお店や観光地が沢山あったので訪ねてみたいと思いました。英語で発表するのはやっぱり難しかったです！でも1回目より2回目の方が上手にできて良かったです。英語で発表する機会はたぶん少ないと思うので良い経験ができました。

他の人の発表の見学ではどの班も違う教科であったものの例えを変えたり特徴をとらえて説明したりと工夫していたのが感じられた。中身は実際に使ったものや図を用いての説明もあり、とてもよかったと思う。自分の発表では、前回よりも短くたんてきにまとめられたのでよかったです。図もつかったうえでの説明となるべく声も大きく意識してできたのでよかったです。説明のとき、どこについて言っているか場所を指しながらできたので、自分なりにはできたと思いました。自分と他の人の発表を通してみんなそれぞれ努力と頑張りが伝わりました。おがわ学がよりよくなることを目標に頑張りたいです。

みんなの発表をきくことができ、色々な分野のことを調べているのだなと思いました。様々な内容を新に学ぶことができ、良かったです。知らなかったことを沢山知ることができました。自分の班の発表では、準備はしっかりやってこられたと思っていたのですが、とても緊張してしまい、思うように発表できませんでした。反省点を生かして次回の最終発表に向けても頑張っていこうと思います。楽しかったです。

発表会などは将来大人になった時に行く機会が多いと思うので、こういった行事はかなり良いと思う。普段コミュニケーションを取らない人ともコミュニケーションなどを取れたりもするので楽しかった。相当緊張した。今回の発表の反省は、もう少し積極的にリアクションを取れば良かったと思う。あと質問に対して正確に答えなかった。

総合歴史研究の発表で、Mさんが「ジビエ」について発表していて、実際にシカの解体まで体験していてすごい説得力があったのとインパクトがすごかったです。

小川高校に入学して3年生で初めておがわ学をやりました。人前で発表するするプレッシャーに負けないよう声のボリュームをあげ、わかりやすいように説明して発表できたかなと思います。他の人の発表を聞いて小川町についてより知れたのではないかなと思ったし、これからも代々受け継いでおがわ学をより進化させていけたらいいなと思いました。

## VI 成果と課題

### 1 本年度の成果

令和3年度は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響がある中であったが、1学年及び3学年の全生徒を対象とした「おがわ学オリエンテーション」を始めとして、小川町政策推進課による「小川町の地域創生に向けた取組」を考える出前授業、「総合的な探究の時間」における中間発表会及び校内発表会、そして公開授業と研究開発発表会をセットにした「おがわ学フォーラム」など、様々な行事を実施することができた。中間発表会、研究開発発表会、校内発表会と、発表の機会が増すたびに生徒のプレゼンテーション能力の向上を見て取ることができた。また、生徒が1人1台端末を活用しながら、探究のプロセス（①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現）を踏むことで、より効果的で先進的な発表につながった。まさに本年度の目標としていた「おがわ学」と「探究的な学習」と「GIGAスクール構想」を有機的に関連づけることができた。

一方で、「総合的な探究の時間」の目標である生徒自身の在り方生き方と結び付いた「探究的な学習」を実践することができた生徒も複数人みられた。NPO法人カタリバが主催する「マイプロジェクト・アワード」にも複数組の生徒が参加し、そのうち3組が関東大会予選を突破して、東日本大会への進出を果たすことができた（3月の全国大会の出場の可能性も有）。

カリキュラム・マネジメントの観点から「おがわ学の構築・実践」を踏まえ、令和3年度から「目指す学校像」と「育成したい生徒像」を刷新し、令和4年度に向けては「教育課程の編成及び実施に関する方針」と「入学者の受入に関する方針」を策定し、手段と目的の再整備を行った。

### 2 今後の課題

本年度の取組を踏まえ、「おがわ学」と「探究的な学習」と「GIGAスクール構想」を有機的に関連づけながら、生徒の在り方生き方と結び付いた「探究的な学習」を推進していくことは、次年度以降に引き継がれた重要な課題である。また、生徒の企画やアイデアを小川町における具体的な取組へと発展させていくことも大きな課題である。

「おがわ学」の願いである「小川町に係わるすべての人々が充実したよりよい人生を送ること」「『おがわ学』を学んだ児童・生徒が将来、地域や社会を支え、世のため人のために力を尽くしてくれること」に向け、引き続き小川町や小川町立小中学校、地域住民の方々と連携協働しながら取組を継続して行っていきたい。

令和元年度指定  
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」  
(地域魅力化型)  
令和3年度 研究開発実施報告書【第3年次】  
令和4年(2022)3月31日発行  
埼玉県立小川高等学校  
〒355-0328 埼玉県比企郡小川町大字大塚1105  
TEL 0493-72-1158 FAX 0493-71-1045  
<https://ogawa-h.spec.ed.jp>